

【主題】主体的で対話的で深い学びの実現を目指した美術教育の実践

【副題】～学校美術館K I N B I の運営を基盤にした教室環境からのアプローチ～

【学校・団体名】大河原町立金ヶ瀬中学校

【役職名・氏名】教頭・鈴木雅之

1 はじめに

本研究は学校の美術活動を金ヶ瀬中学校美術館と称し（金ヶ瀬中学校美術館通称K I N B I，以下K I N B I と表記），創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，美術の基礎的な能力を伸ばし，美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養うことを目的としている。また，その活動の中から主体的・対話的で深い学びを実現し，本校の目指す生徒像でもある，自ら学び続ける生徒，豊かな心を持つ生徒の実現にもつなげていく。

本校は宮城県南の自然豊かな場所に位置し，1学年30人程度の小規模校である。生徒は純朴，温和でおおらかで，何事にも真剣に取り組む生徒である。しかし美術の活動においてはこれまで週1時間程度の少ない時数の中，真面目に手順を踏んで制作に取り組む生徒がほとんどであるが，自分なりに主題を生成し，よりよい答えを導き出す主体的な活動には至らなかった。そのため本研究を行い，改善を試みる。



図①美術室教卓からの風景

2 研究仮説

仮説1 美術室，展示ホール等の環境を整えるアプローチにより生徒の主体性を育むことができるのではないか。

仮説2 生徒同士の対話的な学びの場面を設定することにより，自分の表現したいことを明確にし，制作活動に向かえるのではないかと。

3 研究の方法

創造性を高め，自ら学び続ける生徒の育成の研究手法として，教室環境を整える手立てを講じた。手立て

は以下の3点である。

- (1) 美術室の視覚的情報の工夫，多様な画材を選択するK I N B I 創作室の運営
- (2) 同学年生徒同士・先輩後輩の途中作品を見せ，話し合うことで，制作過程のアイデアを与えるK I N B I 途中美術館の運営
- (3) 完成作品を展示し，対話の中から更なるフィードバック，振り返りから次の作品への意欲に繋げるK I N B I ギャラリーの運営

本研究では「美術館（※1）」において，主体的に美術を学ぶ機会を提供していることに倣い，授業や，授業以外の様々な場面で（1）から（3）の実践の工夫を行った。

※1 本論文での「美術館」の定義は，美術作品等の収集・展示，保存・教育普及活動（創作室等の創作活動補助等）を行う施設とする。



図②美術室前面に置かれた画材類

4 研究内容

(1) 美術室の視覚的情報の工夫，多様な画材を選択するK I N B I 創作室の運営

一般的に美術室は美術の授業の時のみ開放し，その他の時間は施錠する機会が多いが，本研究では美術の授業以外にも自由に入出しし，美術と関わることのできるよう施錠をせず，いつ来ても制作や鑑賞ができるよう環境を整えた。図①は美術室全体の様子である。図②は美術室前面教卓の写真である。生徒が自由に画材を選び制作できるように，様々な画材を配置している。右上から時計回りに，水彩絵の具，アクリル絵具，ポスターカラー，ポスカ，アルコールマーカー，クレ

ヨン、パステル、色鉛筆、鉛筆の順に配置している。生徒はどの時間でも好きなときに画材を選ぶことができ、題材に合わせて自分で考え、必要な画材を選択して描画を始めるようになった。特に3年生になると、自分の表現にはどの画材が適しているか友達や教師と対話し、考え選択する前向きな姿が見られた。図③は美術室背面戸棚である。美術に関連する多くの書籍を展示し、いつでも自由に閲覧できるようにした。生徒たちは、昼休み等に自由に手に取り対話を行っている。



図③美術室背面に置かれた書籍類

こうしたことにより、授業以外の場面で生徒が美術に関する話題を話す場面が増えた。日常的に美術に関する対話をしたことが、制作の場面で生かされ、これまでと比較し、短時間で効率よく生徒が自ら考えアイデアを練ることができるようになった。教師と生徒の対話も、授業時間だけではなく、授業時間以外にも頻繁に行われるようになった。



図④美術準備室内の風景

図④は美術準備室の様子である。美術準備室については多くの学校では生徒が出入りできないようにしている場合が多いが、本校ではK I N B I 収蔵庫と称し、生徒が自由に出入りできるよう美術準備室を開放している。準備室内には様々な作品や小物を展示して生徒が授業以外にも「もっと美術を学びたい」「訪れたい」と思える美術準備室になるよう工夫を凝らした。1年生の「身近なものを見つめて」の題材では多くの生徒が美術室、美術準備室の小物を選択して描写し、美術室に大きな興味関心を持っていることが窺える。

(2) 同学年生徒同士・先輩後輩の途中作品を見せ、話し合うことで、制作過程のアイデアを与えるK I N B I 途中美術館の運営

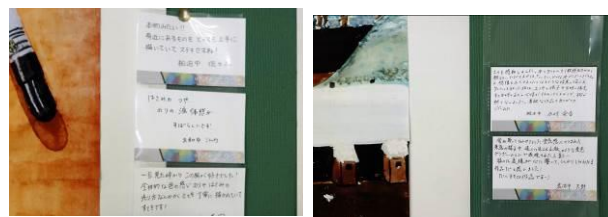


図⑤途中美術館掲示作品

図⑥途中美術館展示の様子

図⑤、図⑥にあるように作品の制作途中の写真やクロッキー、アイデアスケッチなどを人通りの多い1階ホールに常時展示した。生徒が制作する作品は一つの題材でもアイデア→ラフスケッチ→下描き→彩色と多くの変化が生まれている。作品の制作途中の瞬間をカメラで撮影しコピーを展示することで、作者の思いを本人だけでなく、他者にも伝えられるよう展示を行った。展示を行う中で、同学年の生徒同士だけでなく、先輩や後輩、他教科の教師と作品の途中の良い点、気になる点について会話をを行うようになり、作品の制作の今後に良い影響を与えるようになった。加えて自分以外の作品の途中経過を鑑賞することで多くのアイデアや技法について学び、自分の作品に取り入れることができるようになった。

(3) 完成作品を展示し、対話の中から更なるフィードバック、振り返りから次の作品への意欲に繋げるK I N B I ギャラリーの運営



図⑦コメントカード1

図⑧コメントカード2

完成した美術作品の代表作をホールを中心に展示する。美術教師がキュレーターとして作品を選び、展示を行い、期間ごとに入れ替え常時展示を行う。展示作品には図⑦図⑧にあるように全てコメントカード入れをつけ、鑑賞者がいつでもコメントを書けるようにした。コメントカードは校内の生徒・教師が記入するだけでなく、来客等外部の方々にも記入していただき、コメントカードが作者と他者の相互鑑賞の場となるように進めていった。令和5年度は管内教頭会、管内道徳部会、県内の美術研修会等で来校した方もコメ

ントカードを書き、結果作者の励みにもなり次の作品の意欲にもつながっている。

さらに作品を展示することで他学年の生徒や他教科の教師、来校者から授業内容について質問や意見をもらう機会が増えた。そこから対話が始まり、美術の授業以外の場面で生徒は対話による鑑賞を行い、他教科の教師や来校者には美術教育に関するアピールができるようになった。図⑨はK I N B I ギャラリーの展示の様子である。作品は機会を見て、外部にも展示を行っている。令和5年度は学区内の小学校に展示を行った。



図⑨ 絵画作品展示の様子

た。令和6年度については、地域の公民館、地域のアパレルショップへの展示を予定している。

5 結果と考察

(1) 仮説1 美術室、展示ホール等の環境を整えるアプローチによる生徒の主体性の変化

K I N B I 創作室に常時様々な画材を置くことにより、生徒の作品にも多様な変化が見られるようになった。図⑩の作品のようにポスターカラーを使用し平面構成のように表現を行う生徒、細かな筆を使用し、細密に描写する生徒、鉛筆の濃淡でモノクロのドキュメント写真を表すような表現を行う生徒など主体性を持った多様な表現が多く生まれた。

図⑪の作品では大理石のリンゴの質感を的確に捉える生徒、光沢のある絵の具のチューブをしっかりと描写する生徒、図⑫の作品では自分の心の風景をしっかりとした形にして表す生徒など多くの生徒がそれぞれの画材、それぞれの方法で表現を追求している。

そして、生徒は展示ホールに掲示してある他の作品に刺激を受け、次の作品に向けアイデアを練り、制作の意欲を高めるサイクルができています。

(2) 仮説2 生徒同士の対話的な学びの場面を設定することによる、自分の表現したいことの明確化

美術のA表現と、B鑑賞の両面に向上が見られた。授業以外の途中美術館の展示、美術室の書籍の配置を行うことにより授業外で美術に関する対話をする機会が増え、鑑賞の活動についても日常的に授業外でも行うことができるようになった。作品の制作において主



図⑩ 2年生授業作品 風景の先



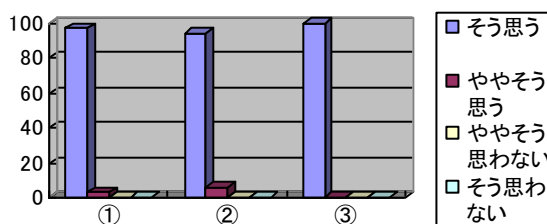
図⑪ 1年生授業作品 身近なものを見つめて



図⑫ 3年生授業作品 自我像～心の像～

題の内容について発想や構想を行う際にも授業以外で対話を行った経験を生かして発想し、対話することにより、次の制作につなげ、短時間で様々な発想を行った作品が増えた。その上、作品の発想に広がりが見られるようになった。

(3) 生徒アンケートの結果から



表① アンケート結果

2024年7月にとった生徒のアンケートは表①の通りであり、生徒が研究の結果、美術に対して前向きな思いを持っていることがよく分かる。アンケートは全校生徒100名中97名が回答し①②③の質問とも全て95%以上の生徒が「そう思う」と答えている。

質問① KINBI 創作室に置いてある画材や書籍などで制作は行いやすくなりましたか？

- ・好きな画材を手に取りやすく、試しやすい。
- ・画材と本を見ていると自然にアイデアが浮かぶ。
- ・レイアウトがよく気分が上がるので描きたくなる。
- ・絵の具を使わなければという先入観がなくなった。
- ・自分が描きたいものが何か考えるようになった。
- ・自分の中で作っていたルールに縛られなくなり、自由に発想し、描けるようになった。

質問② KINBI ギャラリー KINBI 途中美術館の展示は役に立ちましたか？

- ・他学年がどんなことをしているか想像できて良い。
- ・他の作品を見て自分の制作につながっている。
- ・途中経過ってこんなに面白いんだと思った。

質問③ 一斉指導を少なくし、個々の対話を増やしましたが、美術教師・生徒同士の関わり方は変わりましたか？

- ・対話をしているうちにやる気が出てくる。
- ・声をかけやすい雰囲気があるので会話がしやすい。
- ・描いているうちにポジティブな気持ちになる。
- ・対話による鑑賞の授業が面白かった。絵を描いているときも同じような雰囲気でおもしろい。
- ・だんだんと自分の絵に自信が持てるようになった。
- ・先生や友達がたびたび絵の感想を話しかけてくれるから、自分はこうしようと思えるようになった。



図⑬ 国語科の展示の様子 生徒の相互理解にも良い影響が見られ、他者を尊重し良い点を認める態度が学級活動の多くの場面で見られるようになった。

ギャラリーの展示に関しても図⑬にあるように、国語科の申し出から美術作品と並列してKINBIギャラリーに展示を行い教科の広がりを見せている。他教科の教師も生徒の作品に描かれている世界について生徒と対話を行ったり、三者面談や家庭連絡の際に保護

学校の中で美術の活動が活発になることにより生徒の他教科の活動でも良い影響が見られるようになった。特別活動においても学級における

者に作品制作の頑張りについて伝えるなど、教師と生徒・家庭のレポートづくりなど、学校全体の教育活動の様々な場面で良い影響を与えるようになった。



図⑭ 1年生制作の様子

図⑭は夏休み中に自主的に制作を行っている生徒の様子である。生徒は自ら時間を生み出し制作を行っている。

6 終わりに

美術教育の他教科との違いは、自分の答えを見つけ、形にしていく造形的なプロセスを踏むことができる点である。現代社会はAIの導入、データを分析する統計学をベースとした論理的思考力も必要不可欠だが、人間の発想力は人間にしかできない尊い創造活動である。故に、美術教育を通して、自分なりに答えを見つけ、その良さを他者と共有しながら、より良い答えを導き出す力を身に付けさせることには大きな意義がある。

KINBIを活用した生徒の作品の展示は、生徒同士の交流だけでなく他教科の教師との交流にもつながった。作品の鑑賞と共に生徒理解へもつながり、教科の枠を超えた活動となった。

また、美術室等の環境を整えたことで、生徒が自ら考え、他者と交流し、アイデアを練り、それぞれが個性を持った作品を制作することとなった。このような新しいものを創造する生徒の意欲は、他教科にも良い影響となって現れている。

生徒たちは現在も誰に指示されるわけではなく、意欲的に作品制作を行っている。今後も生徒の活動に寄り添い、美術教育を通して主体的で対話的で深い学びを実現させ、新たな世界を創造していく生徒に伴走を続けたい。

7 参考文献

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

令和3年1月26日 中央教育審議会